

SHIMANE UNIVERSITY LIBRARY

Annual Report

2014

島根大学学術情報機構
附属図書館年報



大学図書館の役割

私が所属した研究室の恩師は、いろいろなジャンルの本を読まれていた。あるとき、このように言われた。「杉江よ。一週間に1冊のペースで本を読んでも、1年間でほぼ50冊、大学生活の4年間でも200冊ぐらいしか読めない。ましてや、二度読みたくなる本と何冊巡り合えると思う？」というような趣旨だった。そのとき、なるほどと納得した。それ以降、私も積極的に本に親しむようになったが、下宿の狭隘さから、購入するのは文庫本や新書本に限った。今から思えば、大学の図書館で借りればよかったのかもしれない。図書館と縁が薄かったため、引っ越しには毎回、苦労させられることになった。

大学生時代から大学院生時代にかけての図書館とのお付き合いは、専ら文献調査だった。今と違って、インターネットやデータベースが完備されていない時代には、関連研究の論文を探すのは一苦労で、図書館(正確には狭い分室)に古い雑誌独特のインクや紙の匂いが充満する中、長時間にわたって格闘しなければならず、たとえ論文の存在が分かっても入手できないことが殆どだった。今の学生や青年研究者たちはそんな苦労も知らず、幸せなことだと思う。まあ、しかし、苦労した文献探しも良い思い出ではある。

さて、そんな私が半世紀ぶりに、4月から本学の図書館の仕事をするようになった。あっという間に、4か月が過ぎようとしている。この短い期間にも、いろいろ勉強させてもらった。そして、今の大学図書館に課せられている役割は多岐に亘っているということを痛感させられた。

- (i) 学生が学習し易く、教員が教育し易い環境を整えるために、書籍や雑誌を購入し管理すること
- (ii) 教員や大学院生の学術研究活動全般を下支えするために、電子ジャーナルやデータベースを整備すること
- (iii) 大学が教育研究を通して蓄積してきた学術情報や知的財産を社会に還元すること

などは就任以前から認識していたが、これらの基本的機能を十全に遂行するために、アクティブ・ラーニング、ラーニング・コモンズ、ライティングセンター、レファレンスサービス、機関リポジトリ、大学ポートレイト、データシェアリング、オープンアクセス、オープンサイエンスなどなど数々のカタカナが氾濫している感がある。しかし、それぞれの内容を少し知るといずれもその重要性が理解できる。大学予算全体の削減が続く中、高騰する電子ジャーナルの契約だけでも頭が痛くなる問題であるが、大学構成員全体の知恵とご協力の下で、島根大学附属図書館の強味を生かしつつ諸課題に野心的に取り組み、県内図書館との有機的な連携を図りながら、地域の知的拠点になれるようにより一層努力を続けたい。

附属図書館長 杉江実郎



島根大学学術情報機構 附属図書館の理念と目標

2013（平成25）年8月2日学術情報機構附属図書館運営会議承認

理念

島根大学は、社会の発展と進歩に貢献するため、豊かな人間性と専門性を身につけた人材の養成を使命とし、創造性ある研究の促進や地域連携を推進しています。（「島根大学憲章」より）

附属図書館は、島根大学における学修、教育、研究を支援するための基盤施設として学術情報の収集、提供に努め、また、地域や国際社会との連携をすすめ、地域に根ざし、社会に貢献できる図書館を目指します。

目標

1. 学修・教育支援のための資料と環境の整備

学生の学修を支援するため、充実した資料と学修環境を整備し、人格を育む教育を目指して、学内の教育研究プログラムと連携した教育支援を行います。

2. 研究支援のための学術情報整備

多様な分野の特色ある高度な研究を支援するため、国内外の学術情報の収集整備に努め、これらを効率的に利用できる電子図書館機能を充実します。

3. 地域の学術情報拠点としての連携協力

地域の特性と大学の特色を生かした企画、運営をすすめ、地域の学術情報拠点として、資料提供、連携企画、情報発信等を積極的に行います。

4. 学術コミュニケーションへの貢献

大学の研究成果や貴重資料を世界に向けて発信し、学術コミュニケーション活動に貢献します。

Contents

TOPICS	4
図書館の動向	
・学術情報基盤整備	8
・学修支援/社会貢献	9
・図書館コンシェルジュ	10
・研究開発室の活動状況	11
・資料のデジタル化とデジタルアーカイブによる公開	12
統 計	13
・利用者	14
・貸 出	15
・図 書	16
・図書館資料費	17
・雑 誌	18
・データベース	18
・電子ジャーナル	19
・Webサービス	20
・相互協力	22
・講習会	23
図書館日誌/刊行物/新聞等の報道	24
人事異動/研修	25

■ 国立大学図書館協会賞を受賞 ―遺跡資料リポジトリ・プロジェクト事務局―

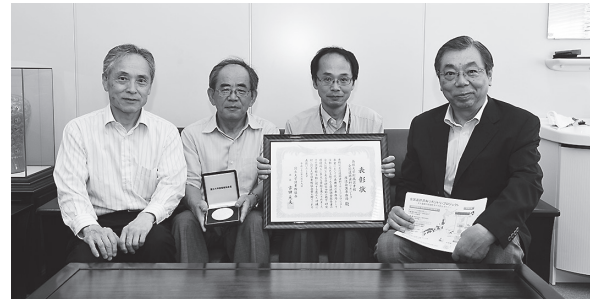
本学附属図書館が事務局として事業を推進した全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトが、平成26年度国立大学図書館協会賞を受賞した。

遺跡資料リポジトリは、発掘調査報告書の全文をデジタル化して公開することにより可視化を図り、一層の利活用を促進するために2008（平成20）年度から始めたプロジェクトで、2014（平成26）年までに21の連携大学が22府県域に収録範囲を広げ、約14,000冊の発掘調査報告書を公開しているものである。

本学附属図書館は、本プロジェクトの事務局として、国立情報学研究所の最先端学術情報基盤整備（CSI）委託事業や科学研究費補助金（研究成果公開促進費）による事業をとりまとめ、参加大学・地域の拡大を進めながらコンテンツの充実にも努めた。また、シンポジウムの開催や学協会での発表による広報に努めたことなどの一連の活動が、図書館員による主体的な活動として行われ、図書館と図書館員の役割について

広く社会の認識を高めた点が評価された。さらに、国立文化財機構奈良文化財研究所と共同で、自治体等の報告書発行機関が直接参加できる新たな参加枠組みを構築・運用し、将来構想として同研究所に中核となるシステムを構築・移行する計画を進めるなど、考古学分野の教育・研究環境の向上に努めている点が評価され、受賞に至ったものである。

【2014年6月】



■ 企画展「戦争と平和を考える2014」開催

本館では、企画展「戦争と平和を考える2014」を開催し、200名程度の来場があった。

本館が所蔵している「山陰中国帰還者連絡会関係資料」は、中帰連山陰支部（のち山陰中国帰還者連絡会へ改称）で長年



事務局長を務めていた、故・難波靖直氏が保管されていた物を寄贈いただいたものである。同史料からは同組織の平和への取り組み、ひいては戦後の島根県の様相を

うかがうことができ、地域の人々の平和意識を物語る貴重な史料の一つと言える。

今回は、近代以降の松江と戦争とのかかわりに焦点を当て、同資料の一部を解説・紹介した。10月3日（金）には、島根大学9条の会と共催でギャラリートークを開催し、学内の教員や「山陰中国帰還者連絡会を受け継ぐあさがの会」の会員、一般利用者も交えて、展示資料や戦争体験を受け継ぐことなどについて意見交換を行い、交流を深めた。

日時 2014（平成26）年7月1日（火）～10月5日（日）
場所 本館1階 展示室

【2014年7月】

■ 第4回大学図書館学生協働交流シンポジウム開催

第4回学生協働交流シンポジウムが開催された。大学図書館における学生協働とは、学生が図書館運営や業務の一端を担う取り組みを指し、本学においては「図書館コンシェルジュ」という名称で2010（平成22）年度より活動している。学生の視点から図書館のサービスを改善すること、学生自身の自主性・社会性等を涵養することを目的としている。同シンポジウムは、学生協働に取り組んでいる大学の学生同士の交流の場として、一年に一度開催されているものである。

第4回は「0（ゼロ）から考える学生協働一次の1歩を踏み出そう」をテーマとして、1日目に講演、ポスターセッション、図書館見学、交流会、2日目にワールドカフェ、職員の事例報告・意見交換というプログラムが組まれた。島根大学からは3名の図書館コンシェルジュが参加し、ポスターセッションにおいてはポスター作成や参加者への説明など、それぞれが協力して行った。2日目のワールドカフェにおいても、「学生協働は利用者の役に立っているのか？」という、学生協働への根本的な問いについて考え、他大学の学生や職員と活発な議論を交わした。学生協働と一口に言っても、大学

によって環境や活動内容は様々である。参加した学生たちにとっては、島根大学以外の学生協働の在り方に触れ、刺激を得る機会となった。第5回学生協働交流シンポジウムは、2015（平成27）年9月8日（火）、9日（水）の2日間に梅光学院大学（山口県下関市）において開催される。

日時 2014（平成26）年8月21日（木）～22日（金）
場所 山口大学

【2014年8月】



■中学生職場体験

本館では2014（平成26）年9月29日（月）～10月3日（金）の5日間、松江市立湖南中学校から職場体験の生徒2名を受け入れ、清掃から図書の配架など様々な作業に従事してもらった。「多くの職員によって図書が利用できるようになることを知った」、「書架への返却作業が大変だった」という感想だった。



また、医学図書館では同年10月1日（水）～3日（金）に出雲市立第二中学校より職場体験の生徒2名を受け入れ、清掃や書架整理の他、図書・雑誌の受入などにも取り組んでもらった。一番興味深かったのは電動書架があることで、面白かった作業は雑誌の仮製本という感想だった。【2014年10月】



■第10回 図書館蔵書リユース市を開催

本館で毎年の恒例行事となっている図書館蔵書リユース市を開催した。これは、図書館で重複等を理由に不用となった図書の再利用を目的として、除籍後に安価で販売するもので、学生・市民からも大変好評いただいている企画である。提供冊数は約3,200冊と例年と比べ少なかったものの、来場者も多く、盛況のうちに終わることができた。

日時 2014（平成26）年11月18日（火）～19日（水）
場所 大学会館3階 大集会室

【2014年11月】



■遺跡資料リポジトリ実務者連絡・調整会議

遺跡資料リポジトリ連携11大学に国立文化財機構奈良文化財研究所を交えて、大阪大学附属図書館を会場として標記会議を開催した。会議では、これまでの発掘調査報告書の電子化と公開活動の実施状況と各大学の状況について報告が行



われ、次年度以降に同システムを奈良文化財研究所へ移行するにあたり、同研究所から移行の概要とスケジュール説明が行われた。同研究所へのシステム移行にあたっての課題や要望等が活発に討議された。

同研究所のシステムが稼働後も、当面は参加自治体へのサポートを連携大学が行うが、将来的には各自自治体が参加・登録するモデルを検討することとなった。

最後に、移行にあたって各大学で行う事前のデータ整備について、作業内容の確認が行われた。

日時：2014（平成26）年11月19日（水）
14:00～17:00

会場：大阪大学附属図書館 総合図書館図書館ホール
（A棟6階）

【2014年11月】

■館内でクリスマスイベント開催

本館では図書館コンシェルジュが企画した次のようなクリスマスイベントを開催した。

- ・アドベントカレンダー（その日に関連する本を展示紹介）
 - ・図書購入リクエストツリー（図書館に置いてほしい本をツリーにお願い）
 - ・図書館川柳選手権（図書館がテーマの五七五を募集。優秀作品には賞品あり）
 - ・クリスマスデザインのしおり、ブックカバーをプレゼント
- 特にしおりやブックカバーは好評で、多くの利用があった。

そして「One Night Lib. - 図書館で過ごす、音楽と本の楽しい一夜」を12月19日（金）夕方、ラーニングcommonsにて開催した。こちらも、図書館コンシェルジュによるクイズ大会、ピブリオトーク、そして本館初のミニコンサート（サクソ四重奏）が開かれ、利用者参加型の楽しいイベントとなった。
【2014年12月】

ONE NIGHT LIB. 図書館で過ごす、音楽と本の楽しい一夜

<音楽と本の夕べ>
12月19日（金）17:30~19:00
附属図書館1階 ラーニングcommons
★クイズ大会 ★ピブリオトーク
★ミニコンサート（サクソ四重奏）

出場者募集中

今年もまた、音楽が所収のクリスマス、気持よく、楽しもうという思いで、あたたかな研究発表会、同僚のみなさんと一緒に、楽しい夜を過ごしたいと思います。ぜひ、お申し込みください。申し込み先は、本館です。

次のイベントも年内開催中

アドベントカレンダー	図書リクエストツリー	図書館川柳選手権	しおり・ブックカバープレゼント
12月1日、この日に発売された本を展示紹介し、その本をプレゼントします。（12月1日～12月31日まで）	図書館で読んでほしい本をリクエストし、その本をプレゼントします。（12月1日～12月31日まで）	5・7・5の川柳を募集し、その中から優秀作品を表彰します。（12月1日～12月31日まで）	しおり、ブックカバーをプレゼントします。（12月1日～12月31日まで）

1-2階、交流スペースで実施しています。ピブリオトークは、附属図書館1階のラーニングcommonsへ申し込んでください。

■西日本図書館学会平成26年度秋季研究発表会を附属図書館との共催で開催



西日本図書館学会の秋季研究発表会が、2014（平成26）年12月6日（土）に本学を会場にして開催された。山陰地区での開催は初めてとなる今回の研究発表会は、本学附属図書館が共催機関となり、島根県大学・高等専門学校図書館協議会の後援を受け、同協議会の職員研修会の一環としても開催されたものである。

学会関係者を中心に、山陰地区の大学図書館や公共図書館、学校図書館関係者など58名が出席し、熱心に研究発表と質疑応答が行われた。同協議会からも8名が参加し、山陰地区の大学図書館等関係者の良い研修機会となった。

【2014年12月】

■島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会 第23回総会

標記の懇談会について、第23回総会を2014（平成26）年12月8日（月）に本学で開催した。毎年、加盟機関持ち回りで開催しており、今回は14機関から21名の参加があった。

廣田医学図書館長の挨拶で始まり、本学医学部放射線医学講座内田幸司先生の講演「原発事故と診療放射線技師」では、豊富な写真で当時の緊張した現場の様子の説明があった。この他、協議や報告、発表2題、各機関の1年間のトピック等の情報交換を行った。

この懇談会は島根県内医療関係機関の図書館及び図書室の連絡・協力を推進し、併せて医学医療の進歩発展に寄与することを目的として、1990（平成2）年に設立された。通称は「医図懇（いとこん）」で、現在22機関が加盟している。
【2014年12月】



■教養科目「平和学」×ブック★コンパスの コラボレーション企画を開催



本館では、教養科目「平和学」とブック★コンパスのコラボレーション企画として、「平和学」で紹介された図書を展示した。

「平和学」は、2014（平成26）年度後期に開講された教養科目で、本学教員がオムニバス形式で講義しており、受講生も多く人気の授業である。ブック★コンパスは、その時期や話題に合う図書を企画展示するものである。

推薦いただいた教員からは、それぞれコメントをつけていただいております。利用者にとっても教員の思いが伝わる展示となった。なお、これら推薦図書は、図書館活用ガイド (http://shimaneuniv.libguides.com/peace_studies) にも一覧が掲載されている。

日時：2015（平成27）年1月7日（水）～2月28日（土）
場所：本館1階玄関ホール

【2015年1月】

■桑原家からの寄贈

桑原文庫は、桑原羊次郎の旧蔵書及び自著等からなる本館の主要なコレクションの一つで、特に羊次郎が精力的に収集した美術関係や郷土関連の記録史料の中には、貴重なものも数多く含まれている。2013（平成25）年度には、桑原家に残されていた800点余りの資料の寄贈を受け、現在受入手続きを進めているところであるが、2014（平成26）年度にもさらに数百点を追加で寄贈いただくことになった。羊次郎の手稿など貴重なものも含まれており、今後整理及び調査を進めていくことで新たな発見が期待できる。

【2014～2015年】



■図書情報システム更新

図書情報システムの更新に伴い、新システムが2015（平成27）年3月から稼働した。

新しいOPACの新機能としては、検索結果に対して出版年や著者等の絞り込み項目が自動生成され絞り込みが容易に行える他、タブの切り替えだけでCiNii Booksや国立国会図書館サーチ等他システムに対して同一検索語による検索が可能となった点がある。また、これまで実現できていなかった文庫や複数所在をまとめてリスト化する機能も備えている。

ポータルサイトのMyOPACは、島根大学統合認証システムと連携することにより、統合認証パスワードによる利用ができるようになった。

【2015年2月】

■ 学術情報基盤整備 —電子ジャーナルの充実に向けて—

本学では2001（平成13）年度から開始した「学術情報基盤整備計画」により、全学的な観点にたって複数の専門分野をカバーする外国雑誌を中心とした電子ジャーナル及び文献データベース等の計画的な整備を行ってきた。全学共通経費を主な財源としたこの整備計画は3年ごとに見直しを行い、2014（平成26）年度は「第5期学術情報基盤整備計画（平成25-27年度）」によって、電子ジャーナル約12,000タイトルに加えて、引用文献データベース、アクセスツール及び文献管理ツールを継続して整備した。大学構外からも電子ジャーナル等を利用できる環境の充実を図るとともに、携帯機器を用いた利用の支援など、より一層の利便性向上に努めた。

なお、化学系、医学系、工学系など一部の専門分野固有の電子ジャーナルパッケージや個別タイトルについては、部局経費により契約し、利用に供している。

1. 第5期学術情報基盤整備計画（概要）

（1）対象とする電子ジャーナル

本整備計画が対象とする電子ジャーナルは、複数の専門分野をカバーするパッケージとして提供されるものとする。特に共通性が高く、重要と判断される個別タイトルについては、コア電子ジャーナルとして本計画の対象とする。

（2）バックファイル等電子資料の整備

年間契約する電子ジャーナルの対象範囲に含まれないバックファイルについても本計画の対象として整備を進める。利用できる電子ジャーナルが少ない人文社会科学分野を対象とする電子資料の整備についても留意する。

（3）利用環境の整備

電子ジャーナル等を迅速・効率的に利活用するために必要なデータベース、アクセス・ツール及び文献管理ツールの整備を継続して進める。大学構外からも電子ジャーナル等を利用できる環境の充実を図るとともに、携帯機器を用いた利用の支援など、より一層の利便性向上に努める。

（4）導入経費等

本計画における電子資料の導入経費には、全学共通経費、部局経費及び間接経費等を充てる。また、出版者等との契約にあたっては、市場調査のほか、JUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）などの関係団体とも連携しながら価格交渉を行う。

2. 学術情報基盤整備をすすめる上での課題

電子ジャーナルは、論文数増大に伴う編集コストの上昇や大手学術出版社による寡占化の進行などによる恒常的な購読価格上昇、為替レートの変動により、いずれの大学においても購読を維持することに苦慮している。

この問題に対応するため、全国の国公私立の大学図書館は2011（平成23）年4月に大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）を結成して、出版社と価格交渉を進めている。また、学術論文のオープン・アクセス運動も続けられているが、電子ジャーナルの価格問題の根本的な解決には至っていない。国内外の動向に注視しつつ、本学の研究・教育に必要な学術情報基盤を維持するために、大学全体で問題意識を共有し、購読経費を工夫していく必要がある。

3. 第6期（平成28年度から平成30年度）学術情報基盤整備計画の策定

2014（平成26）年度第2回学術情報機構附属図書館運営会議（同年9月30日開催）において、第6期学術情報基盤整備計画策定専門委員会の設置が承認された。委員は、館長、医学図書館長、各学部の附属図書館運営会議委員または教員各1名、図書館課長の計8名で構成されている。本委員会では、電子ジャーナル等の電子資料の利用に関するWebアンケート調査（調査期間：同年11月12日（水）から12月7日（日）まで）を実施し、このアンケート調査結果及び利用状況等を考慮して、第6期学術情報基盤整備計画の基本方針（案）及び見直し（案）の作成を行った。

■ 第5期学術情報基盤整備計画で提供している電子ジャーナル・データベース等

2014(平成26)年

電子ジャーナル/データベース名称	概要
Elsevier ScienceDirect	Elsevier社の雑誌 約2,200タイトル
Wiley Online Library	Wiley-Blackwell社の雑誌 約1,400タイトル
Springer LINK	Springer社の雑誌 約1,700タイトル
Cambridge Online Package	Cambridge Univ. Pressの雑誌 約300タイトル
Oxford Online Package	Oxford Univ. Pressの雑誌 約250タイトル
JSTOR : Art Sci. I, Health & General Sci.	学術雑誌バックナンバーのアーカイブ 約250タイトル
ProQuest Research Library, Health and Medical Complete	学術雑誌リソースおよびデータベース 約6,000タイトル
Nature & Research誌	Natureとその姉妹誌 合計5タイトル
PNAS	米国科学アカデミー紀要
Science	米国科学振興協会発行の学術雑誌
Cell	セル出版発行の学術雑誌
New England Journal of Medicine	マサチューセッツ内科学会発行の学術雑誌
Web of Knowledge (Web of Science + JCR)	引用索引データベースと雑誌のインパクトファクター
(EJ管理ツール) 360LINK	電子ジャーナルの管理およびリンクリゾルバ
Summon (ディスカバリーサービス)	学術情報データベースの横断検索ツール
RefWorks (文献情報管理ツール)	文献情報管理および論文作成支援ツール

■学修支援

附属図書館は、学習・研究に供する資料の整備をするとともに、授業と連携した学術情報リテラシー講習会の開催や、各種データベースを活用するためのガイド作成などを通して、学生の学術情報活用能力の育成に取り組んでいる。

1. 学術情報リテラシー講習会（本館・医学図書館）

各種データベース等の活用法を学生に学んでもらうため、学術情報リテラシー講習会を行っている。同講習会は教職員・学生の申込によって開催するものと、図書館が主催するものがある。前者はオンデマンド講習会ともいい、申込者の要望（デマンド）に応じて必要なデータベース等を選定し、それぞれの学習・研究領域に合致した内容を提供している。後者は職員あるいは外部から講師を招いて開催するもので、より高次の要求に応じている。2014（平成26）年度は本館においてJapanKnowledgeLibやWeb of Science等、1種類のデータベースに特化した内容で開催した。

オンデマンド講習会は4～5月や10月など、学期始めに集中しているが、申込は通年受け付けている。（P23参照）

2. LibGuidesの作成・整備（本館）

近年、パスファインダー作成・共有ツールとしてLibGuidesを活用する大学が増えている。パスファインダーとは、『図書館情報学用語辞典 第4版』によると、「利用者に対して、特定の主題に関する各種情報資源や探索方法を紹介・提供する初歩的なツール」であり、当初、主たる媒体は紙であった。現在はホームページ等電子媒体の利用が増えており、SpringShare社が提供するLibGuidesは、HTMLなどの知識を要することなく作成・公開・共有までを行うことができる。

附属図書館では、利用頻度の高いデータベースおよびサー

ビス等について、LibGuidesを用いて基本的なガイドを作成し、公開している。しかし現在は11種にとどまっており、利用者へ浸透しているとはいいがたい。今後は、さらに多くのデータベースへ拡大するとともに、広報や周知に努めることが必要である。

3. ラーニング・コモンズ利用調査（本館）

2014（平成26）年7月8日（火）～10日（木）（通常の授業期間）、7月29日～31日（試験期間）の2回に分けてラーニング・コモンズの利用実態調査を行った。調査結果をもとに利用実態を分析し、今後のラーニング・コモンズの活用方法の検討材料とする。（なお、調査結果については附属図書館報『沁雲』17巻掲載の金子論文（P55～62）を参照のこと）

4. 医学図書館における取組

医学部における英語教育を重要視する声の高まりを受け、英語の岩田淳教授の選定により、Penguin readersシリーズを提供している。本シリーズはレベル分けされた英語教本シリーズである。2014（平成26）年度は51冊を購入し、合計150冊となった。また、併せて回転式書架を購入し、これまで通常の書架に配架していたところを別置することで、利用者により手に取ってもらいやすいよう改善した。新しく設けた案内板は本学英語学習支援室eクリニックで作成していただいた。

■社会貢献

附属図書館が所蔵する学術資料を県内の図書館に対して貸出を行う他、デジタルアーカイブによる貴重資料の提供や展示会への貸出などを通して、社会貢献を継続して行っている。

1. 物流による相互貸借

（詳細は統計（p22）参照）

県内の大学・高専図書館や公共図書館と、図書の相互貸借を実施している。前者は、島根県大学・高等専門学校図書館協議会の松江市内の物流ネットワークを、後者は島根県立図書館が運用する県内の物流ネットワークを活用したものである。

県内の各種図書館に対する本学からの貸出は年々増加傾向にある。統計を見ると、市町村図書館への貸出が多く、本学が所蔵する学術資料を通じて地域貢献を果たしている。

2. デジタルアーカイブによる資料提供

附属図書館研究開発室を中心として、デジタルアーカイブの構築を進めてきた。このシステムは各分野の歴史的・学術的な貴重資料、或いは地域史資料などのデジタル画像をアー

カイブし、学術研究・教育利用及び調査活動等の各プロセスや成果公開等を支援するものである。近年アクセス数は増加しており、『出雲風土記抄』（桑原文庫）、『堀尾期松江城下町絵図』はいずれも1200件を超えるアクセスがあった。今後もコンテンツを随時追加し、広く資料を提供していく。

3. 資料貸出

<本館>

「出雲石見魚漁図解」巻～四（4冊）

「因伯魚漁図解」上・下（2冊）

島根県立古代出雲歴史博物館企画展「入り海の記憶」

（2015年3月27日～2015年5月3日）へ貸出

<医学> 今年度はなし

■図書館コンシェルジュ

「図書館コンシェルジュ」とは、附属図書館において学生スタッフが活動し、図書館におけるピアサポートと学生の視点によるサービス等の改善を目指す制度である。本学では、教育開発センターの協力のもと全学のピアサポートプログラム（正課PSP）の一環として、2010（平成22）年度より行われている。2014年度は前年度の経験者6名を含む13名が図書館コンシェルジュとして活動を行った。

これまでの活動内容を検証し、2014年度はコンシェルジュ活動として、「自主企画活動」「利用サポート活動」の二つを大きな柱とし、「学生協働交流シンポジウム」へも昨年同様継続して参加した。

1. 自主企画活動

昨年（2013年）度までは「図書館サービスの改善企画」として、学生が自主的に企画し立案していたものを、2014（平成26）年度からは「自主企画活動」とし、様々な活動を行った。

（学生による活動）

- ・ 図書の企画展示（ブック★コンパス）
- ・ 読書会
- ・ レポート・スタディ支援
- ・ ブックカバー作成

（職員との協働による活動）

- ・ 館内ツアーガイド
- ・ 留学生アンケート
- ・ 広報誌発行
- ・ 館内飾りつけ（七夕、クリスマス）

また、12月にはクリスマスイベントを企画し、中でも「音楽と本の夕べ」では、クイズ大会やビブリオトーク、ミニコンサートを開くなど、利用者参加型のイベントを展開した。他にも、アドベントカレンダーをはじめ、図書館川柳選手権や図書購入リクエストなどを開催し、季節感を大事にした活動を行うことで、図書館利用を促した。

2. 利用サポート活動

これは、図書館カウンターにおいて図書館の使い方や資料の探し方など利用者からの質問や相談に対応するもので、正課PSPによる予算支援を受けて行われている。サポートを受ける側の利用者の多くは学生であるため、コンシェルジュの学生が対応することで、より相談しやすい環境や雰囲気となり、学生の図書館利用に貢献している。

2014（平成26）年度は、予算の都合上昨年度よりも一日当たりのコマ数を減らして活動に当たらざるを得なかった。また、サポートに際しては昨年度までサブカウンターでの活動を行っていたが、利用者の多くがメインカウンターの職員へ質問することが多かったため、この点を見直し、後期からはメインカウンターに入ってサポート活動を行うことになった。それに伴い、カウンター研修を手厚く行うことで、様々な問い合わせに対応できるようにした。このことで、コンシェルジュに相談する学生も増え、コンシェルジュ自身の知識や情報リテラシーの向上につながった。次の表は、2014（平成26）年度の活動実績である。活動可能なコマ数のうち、実際に活動したコマ数の割合（実施率）およびカウンターで受けた質問件数をまとめている。試験期間中は試験を優先するため実施率は低めである。また、前年まで3・4時限目も入っていたシフトを昼休み以後としたこと、研修時間を増やしたことなどが活動コマ数減少の要因となっている。

3. 学生協働交流シンポジウム

大学図書館で活動する学生協働スタッフが各大学での取り組みを共有することで、学生協働の意義を明らかにし、活動のさらなる発展を目指して、2011（平成23）年度に開始した交流シンポジウムであるが、2014（平成26）年度は山口大学において第4回目が8月21日（木）、22日（金）に開催された。本学からはコンシェルジュ3名が参加し、ポスター発表を行った。北は岩手から、南は鹿児島まで28大学、計143名の参加があった。毎年このシンポジウムに参加した学生は、ここでの出会いに刺激を受け、その後の活動が豊かに、実りあるものとなることが多い。今後も同シンポジウムに積極的に参加し、より多くの学びを得ることが期待される。

■利用サポート実施状況 2014（平成26）年度

月	活動可能 日数	A) 活動可能 コマ数	B) 活動した コマ数	実施率 (B/A)	C) 質問件数	コマ当たり 質問件数 (C/B)
5月	14	64	53	82.8%	115	2.2
6月	21	97	81	83.5%	186	2.3
7月	22	101	67	66.3%	116	1.7
8月	3	14	10	71.4%	18	1.8
10月	22	84	60	71.4%	112	1.9
11月	18	84	61	72.6%	99	1.6
12月	16	76	58	76.3%	108	1.9
1月	18	87	64	73.6%	102	1.6
2月	8	38	21	55.3%	30	1.4
合計	142	645	475	73.6%	886	1.9



■ 研究開発室の活動状況

附属図書館研究開発室は、図書館業務やサービスの向上を目指して、室員が専門的な立場から特定課題についての研究開発を行うために2006（平成18）年に設置された。2014（平成26）年度は、戦略的機能強化推進経費の配分を受けて、次の活動を行った。

2013(平成25)－2014(平成26)年度 室員名簿

委嘱名	所属・職名	氏名	テーマ	委嘱名	所属・職名	氏名	テーマ
室長	館長	田籠 博	研究開発室の統括	副室長	医学図書館長	廣田 秋彦	研究開発室の統括 (医学図書館関連)
顧問	島根大学名誉教授	松尾 壽	記録史料(近世)	顧問	島根大学名誉教授	常松 正雄	英米文学
室員	法文学部教授	田中 則雄	和古書(国文学)	室員	法文学部講師	野本 瑠美	和古書(国文学)
室員	法文学部准教授	小林 准士	記録史料(近世)	室員	教育学部教授	森本 直人	教科書データベース
室員	教育学部教授	権藤 誠剛	教科書データベース	室員	医学部教授	岩田 淳	西東文庫
室員	総合理工学研究科教授	平川 正人	システム	室員	法文学部教授	野田 哲夫	システム

1. 桑原文庫の調査・研究

- 室員：田中則雄（法文学部教授）
- 室員：小林准士（法文学部准教授）
- 室員：野本瑠美（法文学部講師）

桑原家から2013（平成25）年度に新たに寄贈を受けた資料の整理及び調査を行った。また、新たに寄贈を受けた資料を加えて、既存目録を改訂するための準備作業を行った。寄贈を受けた主な資料は次のようなものである。

- ・美術展覧会の出品目録、古書店の販売目録
- ・語学学習書、辞書類（英語、独語、伊語など）
- ・日本美術品（浮世絵、刀剣小物、絵画、陶芸など）関連図書、雑誌類
- ・不昧公、茶碗、窯など茶道関連資料
- ・欧米渡航時の手帳、新聞切り抜き、招待状、記録類、写真類
- ・書簡（内村鱸香から山口巻石（＝羊次郎の外祖父）宛て）約600通
- ・桑原羊次郎の著作

2. 教科書データベースの作成

- 室員：森本直人（教育学部教授）
- 室員：権藤誠剛（教育学部教授）

データベース化のための事前作業として、戦後の検定教科書を対象に、重複しているものを識別する作業を行った。平行して、教科書コレクションとして整理する資料の請求記号体系の検討を行った。教科書コレクションとして整理するのは、次の資料である。

- ・児童・生徒用教科書（戦前／戦後検定教科書）
- ・師範学校教師用
- ・旧制松江高等学校学生用
- ・農科大学学生用
- ・教育課程文庫（教科書／教師用）

3. 西東文庫の調査・研究

- 室員：岩田淳（医学部教授）

Aime Humbert著・Japan and the Japanese Illustrated (1874年)の解説を元に展示用パネル（9枚）及び、パンフレットを作成した。

4. デジタルアーカイブ・システム

- 室員：平川正人（総合理工学研究科教授）
- 室員：野田哲夫（法文学部教授）

情報処理システムの更新に伴い、新たな高精細画像サーバシステムを導入した。更新した機能は以下である。

- ・従来のマルチページPDFによる表示から、ページ単位で画像表示を行う方式に変更し、画像表示時間を大幅に短縮した。
- ・高精細画像の表示プラグインにAdobe FlashPlayerを使用していたが、プラグインを使用せずに高精細画像の表示が可能になった。これにより、iPad等のタブレットからも閲覧可能になる。
- ・キャッシュの自動更新機能を改善し、画像表示を高速にした。
- ・元となるPDFファイル等から指定サイズの公開用画像を自動生成する。

5. 資料のデジタル化

戦略的機能強化推進経費の他に、学内ワークスタディ、外部資金を活用して、本学所蔵資料及び地域の史資料のデジタル化を行った。デジタル化を行った主な史資料は次のとおりである。

- ・桑原文庫 絵図 29点 / 『古今名物類聚』 18冊
- ・林家文書 小笠原文書 5巻
- ・相坂先生寄贈資料 99冊
- ・田代家寄贈史料 『大同類聚方』 15冊
- ・手銭記念館蔵書 『萬日記』 11冊／その他 198点
- ・河本家資料 65点
- ・島根県立美術館 桑原羊次郎『雙蛙亭慢録』 18冊

6. 資料保存対策

(1) マイクロフィルムの劣化対策

劣化が進行しているマイクロフィルム97本の複製を作成した。これまでに、「ヘルン文庫」など劣化が進行しているマスターフィルム590本について複製作成を行った。

(2) カビ対策

書庫内の資料を中心に、広範囲にわたってカビが発生したため、新たに戦略的機能強化推進経費の配分を受けて、カビの除去作業を実施した。

適切な温湿度環境を維持するため、温度・湿度の情報を自動的に記録してLAN経由でサーバーに送信するデータロガー

を館内の8か所に設置し、温湿度を常時モニタリングできる体制を構築した。

7. 貴重資料関連規程の整備

次のような貴重資料関連規定等の改正、新規制定等の検討を行った。

- ・島根大学学術情報機構附属図書館貴重資料等の取扱いに関する要項（改正）
- ・島根大学学術情報機構附属図書館貴重資料等指定基準（新規制定）
- ・島根大学学術情報機構附属図書館デジタルアーカイブ運用要項（新規制定）

資料のデジタル化とデジタルアーカイブによる公開

附属図書館は、デジタルアーカイブによる史資料の公開と活用を進めてきたところであるが、2014（平成26）年度は、外部資金を積極的に活用した史資料のデジタル化を進めた。

1. 本学所蔵史資料

戦略的機能強化推進経費の他に、学内ワークスタディ、外部資金を活用して、本学所蔵資料のデジタル化を行った。（詳細は、p.11「研究開発室」参照）

2. 外部資金を活用したデジタル化

(1) 文化庁助成事業「出雲文化活用プロジェクト」

公益財団法人手銭記念館と本学山陰研究センター・附属図書館は、2014（平成26）年度の文化庁「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を受けて「出雲文化活用プロジェクト」を発足させた。このプロジェクトは、出雲大社の門前町として栄えた大社（現在の出雲市大社町）で、江戸時代前期から酒造業などを営んだ手銭家に伝わる史資料を調査・研究し、公開・活用することで、江戸時代の大社における生活文化や文芸活動などの様相を明らかにすることを目的としたものである。

大年寄、御用宿なども仰せ付かっていた手銭家に伝わる史資料は、江戸中期から後期にかけての大社の町に関する様々な側面を詳しく記録し伝える資料群である。中でも『萬日記』は、手銭家の歴代当主が代々にわたって記した公私の記録であり、手銭家を中心に展開した大社の文芸活動を解明する上で重要な位置を占める資料である。2014（平成26年度）の本プロジェクトは、手銭家の史資料を活用した次の事業を中心に取り組んだ。

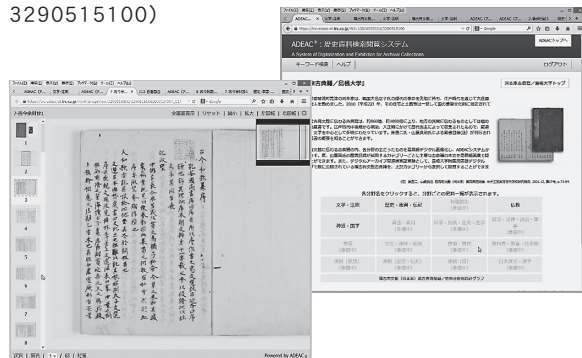
- ・『萬日記』の資料調査・解説
- ・特別企画展「江戸カー手銭家蔵書から見る出雲の文芸―」
- ・連続講座「手銭家蔵書からみた出雲の文芸」（全3回）
- ・シンポジウム「手銭家蔵書からみた出雲の文芸」
- ・資料デジタル化

本学附属図書館は、史資料のデジタル化と公開について主に担当した。デジタル化は、『萬日記』（全11冊）及び特別企画展で展示した資料を中心にを行い、公開可能なものについて本学デジタルアーカイブから公開した。

(2) 図書館振興財団助成事業「河本家古典籍のデジタル化と公開」

国指定文化財河本家住宅保存会（鳥取県東伯郡琴浦町）と連携して申請した図書館振興財団の助成事業「稽古有文館に伝わる史資料のデジタル化とデジタルアーカイブ間連携公開事業」が採択された。この事業は、2014（平成26）年度から2016（平成28）年度までの3ヵ年計画で、河本家に伝わる古典籍約860種（約4800冊）の内、主要なもの172種（約600冊）をデジタル化して、公開するものである。2014（平成26）年度は、76点280冊をデジタル化し、第1次公開としてクラウド型デジタルアーカイブシステムであるADEACシステムから公開した。

(URL: <https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/3290515100>)



■2014(平成26)年度データ

2014 Data

		本館 (松江キャンパス)	医学図書館 (出雲キャンパス)	合 計	
開 館 日 数	平 日	238	239		
	土・日・祝 日	71	90		
	合 計	309	329		
利 用 対 象 者 数 (平成27年5月1日現在)	教 職 員	2,800		2,800	
	学 生	5,034	1,160	6,194	
	学 外 者	923	53	976	
	合 計			9,970	
入 館 者 数	学 生・教 職 員	302,015	186,834	488,849	
	学 外 者	10,027	359	10,386	
	合 計	312,042	187,193	499,235	
貸 出 冊 数	学 生	57,367	11,051	68,418	
	教 職 員	6,157	1,709	7,866	
	学 外 者	4,121	291	4,412	
	合 計	67,645	13,051	80,696	
蔵 書 冊 数 (平成27年3月31日現在)	和 漢 書	639,993	68,022	708,015	
	洋 書	153,743	66,482	220,225	
	合 計	793,736	134,504	928,240	
図 書 受 入 冊 数	和 漢 書	購 入	7,857	1,452	9,309
		寄 贈・そ の 他	7,698	637	8,335
		計	15,555	2,089	17,644
	洋 書	購 入	275	150	425
		寄 贈・そ の 他	275	178	453
		計	550	328	878
	合 計	16,105	2,417	18,522	
雑 誌 所 蔵 種 類 数	和 雑 誌	8,519	2,118	10,637	
	洋 雑 誌	2,925	1,767	4,692	
	合 計	11,444	3,885	15,329	
雑 誌 受 入 種 類 数	和 雑 誌	購 入	541	198	739
		寄 贈・そ の 他	1,390	200	1,590
		計	1,931	398	2,329
	洋 雑 誌	購 入	168	32	200
		寄 贈・そ の 他	49	34	83
		計	217	66	283
合 計	2,148	464	2,612		
資 料 費 (千円)	学 生 用 図 書	15,617	5,183	20,800	
	雑 誌	5,720	4,119	9,839	
	小 計	21,337	9,302	30,639	
	デ ー タ ベ ー ス	9,953		9,953	
	電 子 ジャ ー ナ ル	96,870		96,870	
	合 計	137,462			
文 献 複 写 件 数	受 付	1,001	1,512	2,513	
	国 内 依 頼	2,115	1,199	3,314	
	海 外 依 頼	1	0	1	
現 物 貸 借 件 数	貸 出	272	4	276	
	借 受	491	8	499	

利用者 In-Library Users

本館は耐震・機能改修工事中（2012年度）は入館者数が減少していたが、昨年に続き増加した。増加の要因は学生・教職員の利用が増えたことによる。また、本学では、市民パスポート会員制度を開始したことから学外者の利用が増えることを想定していたが、昨年度並の水準にとどまっている。

医学図書館の入館者は、学生・教職員が中心となっているが、入館者数は近年減少傾向にある。

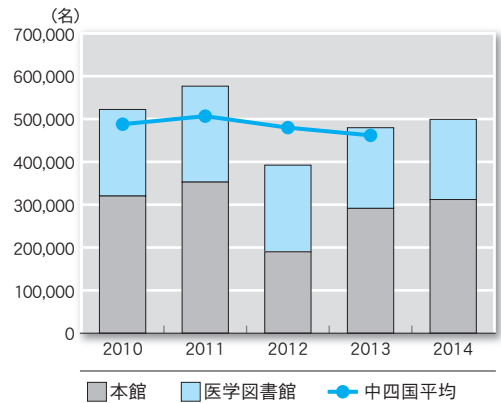
※中四国平均は、「日本の図書館：統計と名簿」（日本図書館協会編）に掲載の中国四国地区国立大学のうち、島根大学と同規模校（学部数2～7学部）7校（広島・岡山・鳴門教育大学を除く）の平均値を用いた。（以下同様）

入館者数の計測方式変更

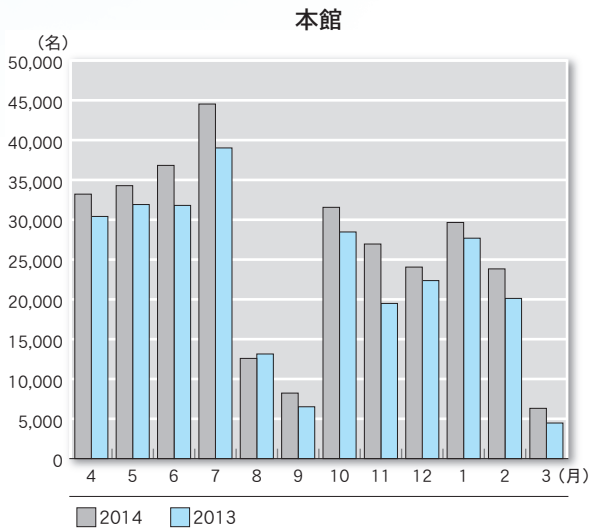
■入館者数

		2010	2011	2012	2013	2014
本館	学生・教職員	308,935	342,100		281,302	302,015
	学外者	11,247	10,618		10,097	10,027
	小計	320,182	352,718	189,974	291,399	312,042
医学図書館	学生・教職員	201,531	223,570	201,885	187,988	186,834
	学外者	581	425	448	348	359
	小計	202,112	223,995	202,333	188,336	187,193
合計		522,294	576,713	392,307	479,735	499,235

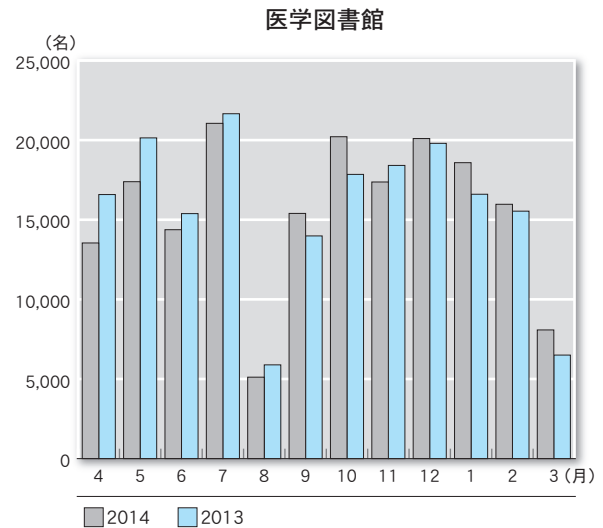
※本館では2012年度に耐震・改修工事のため、利用者別入館者数は不明。



■月別入館者数



月別入館者数の状況を年度別に比較したものである。本館は前年度と同様の傾向にあるが、7月、11月が大きく増加している。



医学図書館では、前期の4月、5月入館者数が減少している。後期の10月、1月に増加したが、全体では若干減少している。

本館での貸出冊数が大幅に伸びているのは、従来カウントしていなかった延長貸出冊数を貸出冊数に含むようにしたことが一部影響しているが、貸出冊数は増加傾向にある。

医学図書館では、学生、教職員、学外者とも貸出が減少傾向にある。

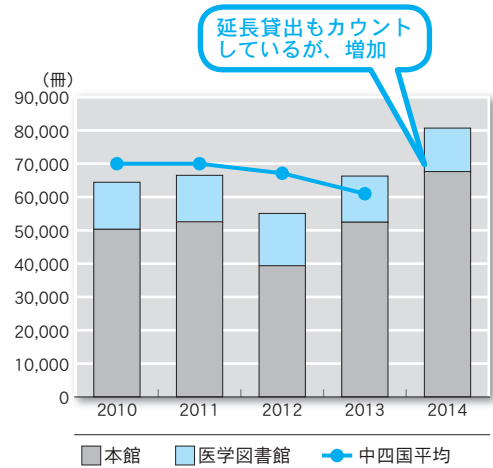
学部別の学生1人あたりの年間平均貸出冊数と学部別/学

年別貸出冊数をみると、法文学部は各学年を通じてよく利用している。教育学部の貸出は、増加傾向だが2年生の貸出は少ない。

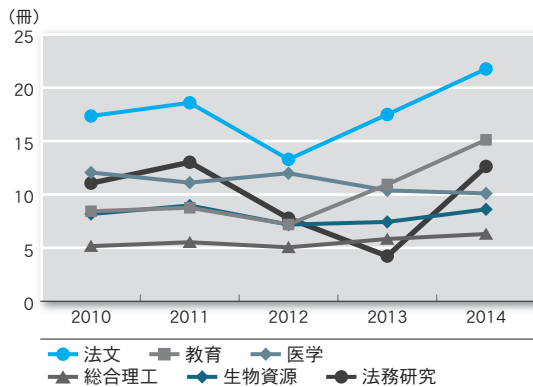
月別貸出冊数は、本館は8月を除き増加している。医学図書館では、4月、5月、6月に減少したものの、前年と比べて大きな変化はない。

■貸出冊数

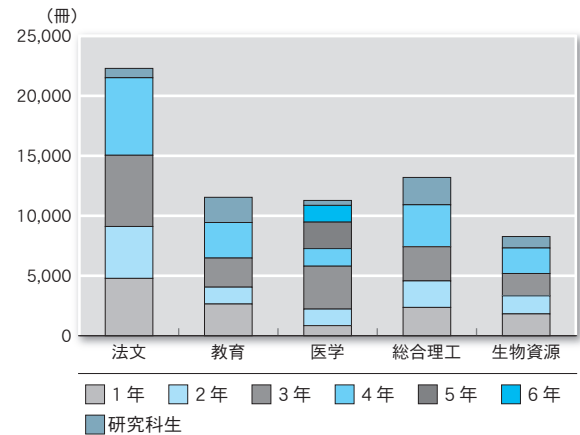
		2010	2011	2012	2013	2014
本館	学生	44,274	46,083	35,500	44,462	57,367
	教職員	4,018	4,546	2,514	5,019	6,157
	学外者	2,019	1,950	1,371	2,960	4,121
	小計	50,311	52,579	39,385	52,441	67,645
医学図書館	学生	12,205	11,720	13,013	11,297	11,051
	教職員	1,315	1,605	2,331	2,224	1,709
	学外者	612	618	358	337	291
	小計	14,132	13,943	15,702	13,858	13,051
合計	64,443	66,522	55,087	66,299	80,696	



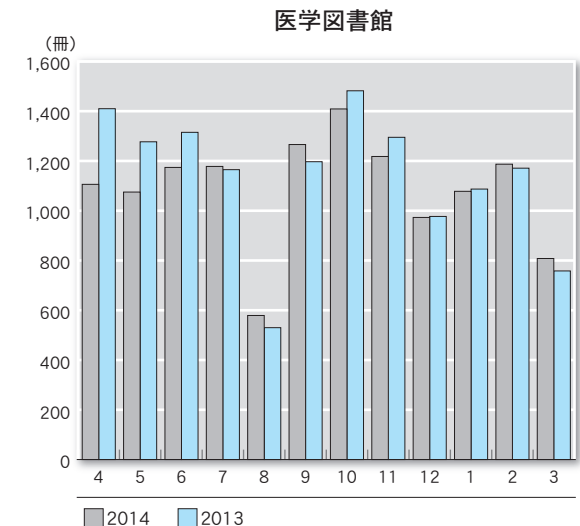
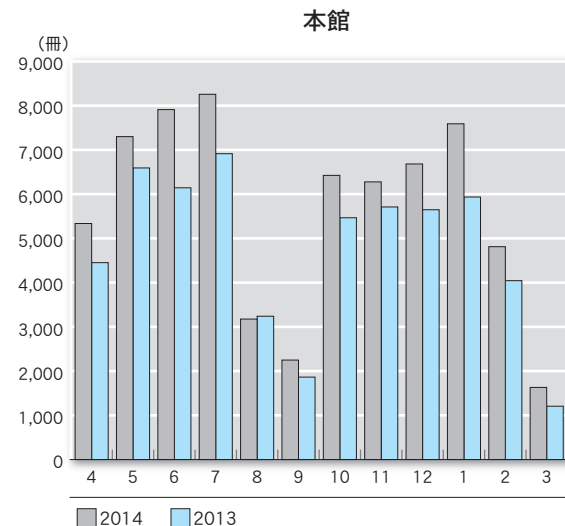
■学生1人あたりの年間平均貸出冊数



■学部別/学年別貸出冊数



■月別貸出冊数



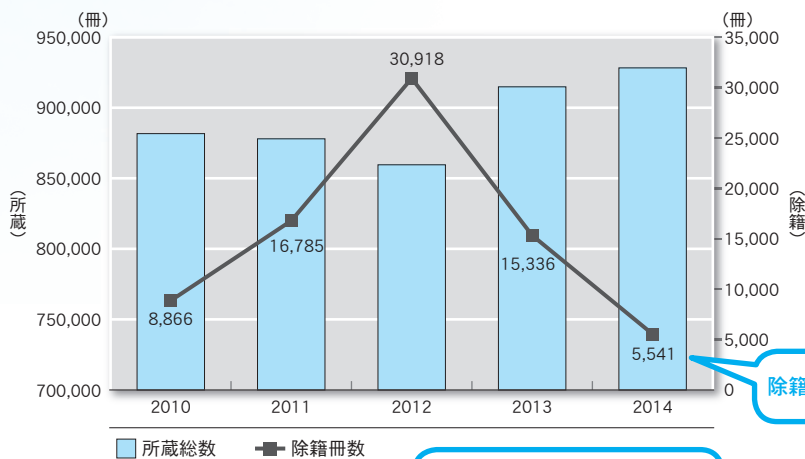
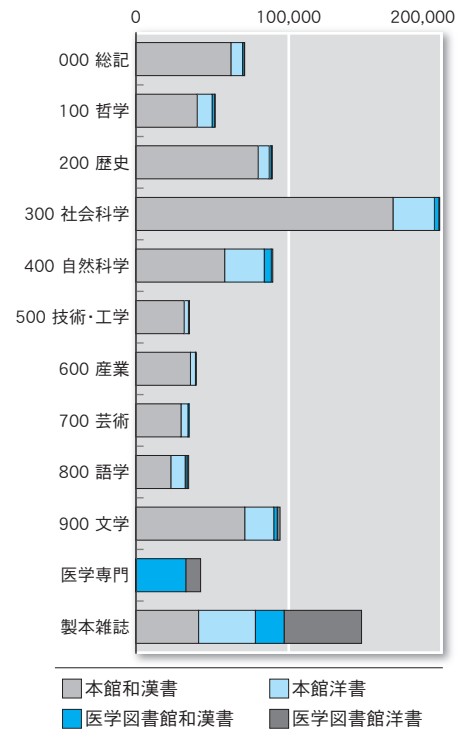
除籍冊数は減少傾向にあり、2014（平成26）年度は、前年度よりも、約13,000冊増加し928,240冊となった。

受入冊数は、本館では購入冊数は若干減少したが、寄贈・

その他の資料の受入が多かったため増加している。医学図書館では、購入単価の高い資料を整備したため受入冊数が減少した。

■ 蔵書冊数（分類別）

	本館			医学図書館			合計
	和漢書	洋書	小計	和漢書	洋書	小計	
000 総記	63,721	7,624	71,345	14,231	42,069	56,300	127,645
100 哲学	40,086	9,749	49,835	1,618	412	2,030	51,865
200 歴史	79,969	7,220	87,189	1,305	658	1,963	89,152
300 社会科学	168,738	27,157	195,895	2,968	561	3,529	199,424
400 自然科学	58,040	25,934	83,974	4,647	963	5,610	89,584
500 技術・工学	31,531	2,789	34,320	531	33	564	34,884
600 産業	35,666	3,260	38,926	315	27	342	39,268
700 芸術	29,465	4,537	34,002	754	136	890	34,892
800 語学	22,795	9,380	32,175	1,231	1,051	2,282	34,457
900 文学	71,203	19,010	90,213	2,252	1,891	4,143	94,356
医学専門	2	0	2	33,332	9,839	43,171	43,173
製本雑誌	38,777	37,083	75,860	4,838	8,842	13,680	89,540
合計	639,993	153,743	793,736	68,022	66,482	134,504	928,240

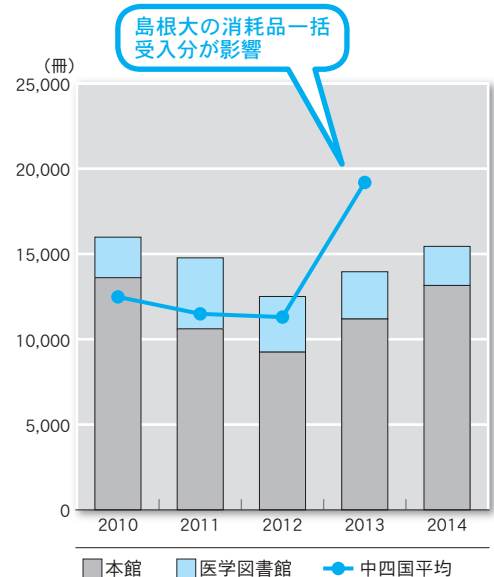


除籍冊数が減少

消耗品図書の一括受入分
2013年度 57,077冊
2014年度 3,077冊 を除く

■ 受入冊数

		2010	2011	2012	2013	2014	
本館	和漢書	購入	7,681	7,610	7,497	8,022	7,857
		寄贈-その他	3,817	2,270	995	2,435	4,865
		計	11,498	9,880	8,492	10,457	12,722
	洋書	購入	567	584	655	451	275
		寄贈-その他	1,545	148	99	279	157
		計	2,112	732	754	730	432
小計	13,610	10,612	9,246	11,187	13,154		
医学図書館	和漢書	購入	1,731	1,117	2,227	2,028	1,842
		寄贈-その他	242	963	636	487	169
		計	1,973	2,080	2,863	2,515	2,011
	洋書	購入	370	1,813	346	238	255
		寄贈-その他	31	267	53	18	25
		計	401	2,080	399	256	280
小計	2,374	4,160	3,262	2,771	2,291		
合計	15,984	14,772	12,508	13,958	15,445		



島根大の消耗品一括受入分が影響

図書館資料費

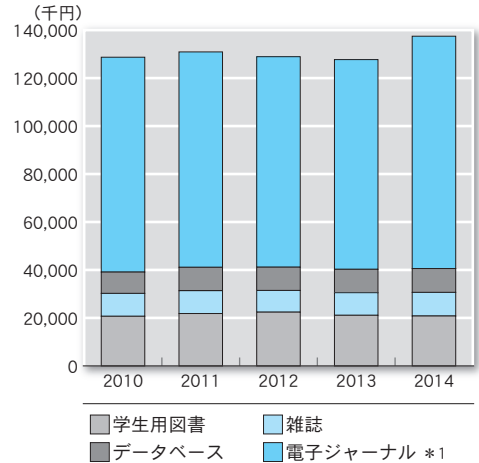
Expenditures for Library Materials

学生用図書や雑誌経費として共通経費が配分されているため、購入規模は維持されている。また、資料費の大部分を占める電子ジャーナル経費は、全学共通経費や部局負担により維持されているが、原価値上がりや円安の影響で上昇が続いている。

本館では、資料費は前年度とそう変わらないにもかかわらず、学生一人あたりの金額と1冊当たりの単価はともに減少している。これは、電子BOOK等の整備費が統計上の冊数に含まれないためである。医学図書館では、購入単価の高い資料を整備したことにより、購入冊数が減少した。

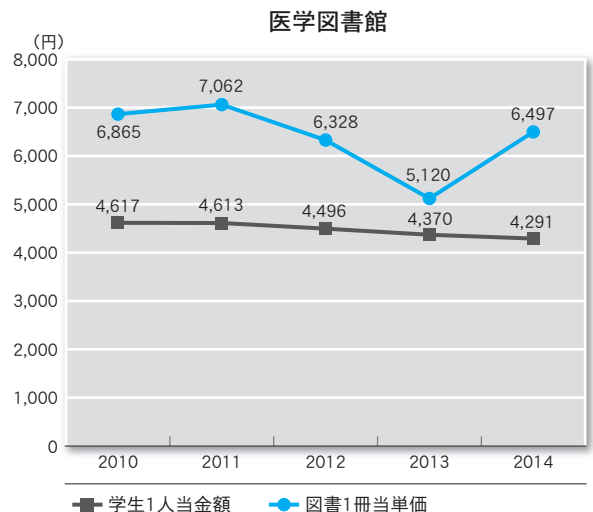
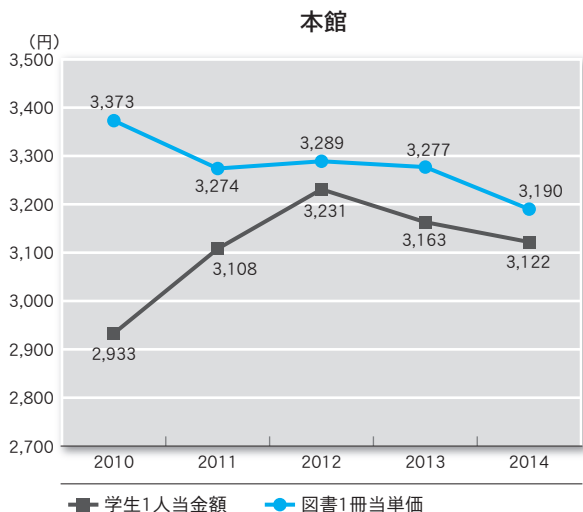
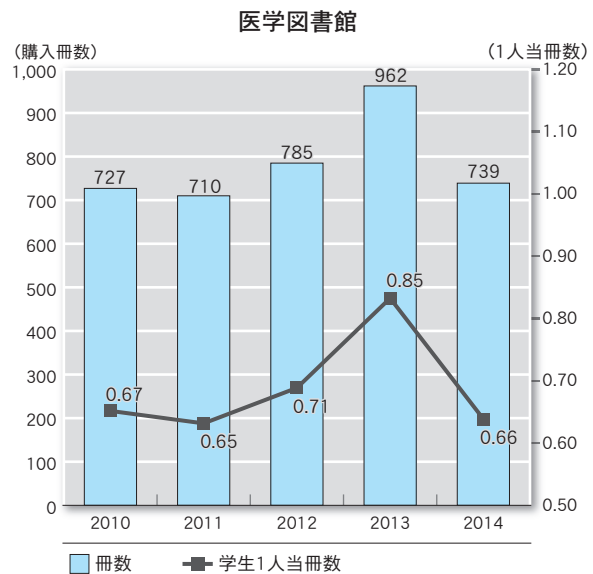
図書館資料費の推移

		2010	2011	2012	2013	2014
本館	学生用図書	15,376	15,704	16,238	15,807	15,617
	雑誌	5,920	5,666	5,231	5,810	5,720
	小計	21,296	21,370	21,469	21,617	21,337
医学図書館	学生用図書	5,306	6,127	6,167	5,289	5,183
	雑誌	3,617	3,864	3,820	3,612	4,119
	小計	8,923	9,991	9,987	8,901	9,302
データベース		8,893	9,743	9,700	9,754	9,953
電子ジャーナル*1		89,590	89,810	87,766	87,439	96,870
合計		128,702	130,914	128,922	127,711	137,462



*1 学術情報基盤整備計画(P.8参照)にかかる経費相当分

学生用図書



■ 雑誌

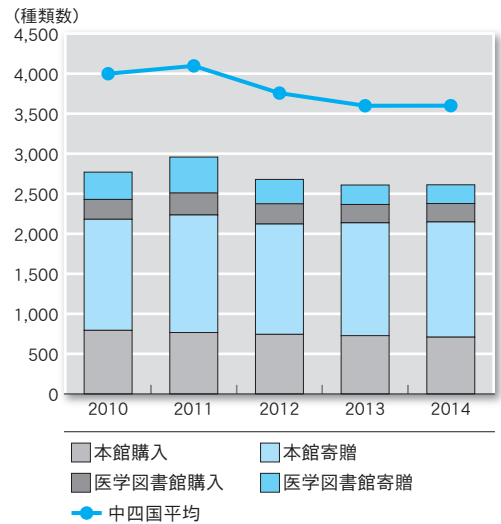
Periodicals

図書館備付分は学生用の和雑誌が中心であり、電子ジャーナルへの切り替えが進んでいる洋雑誌については数が少ない。

また、本館では配架保存スペースが不足しており、2010年度から寄贈雑誌の受入について見直しを行い、受入種類数を大幅に減らしたが、それ以後は大きな変化はない。

■ 受入種類数

			2010	2011	2012	2013	2014
本館	和雑誌	購入	590	572	569	549	541
		寄贈・その他	1,325	1,416	1,324	1,356	1,390
		計	1,915	1,988	1,893	1,905	1,931
	洋雑誌	購入	204	195	175	179	168
		寄贈・その他	62	52	54	53	49
		計	266	247	229	232	217
小計			2,181	2,235	2,122	2,137	2,148
医学図書館	和雑誌	購入	181	212	180	197	198
		寄贈・その他	275	416	270	210	200
		計	456	628	450	407	398
	洋雑誌	購入	67	63	73	32	32
		寄贈・その他	66	32	34	33	34
		計	133	95	107	65	66
小計			589	723	557	472	464
合計			2,770	2,958	2,679	2,609	2,612



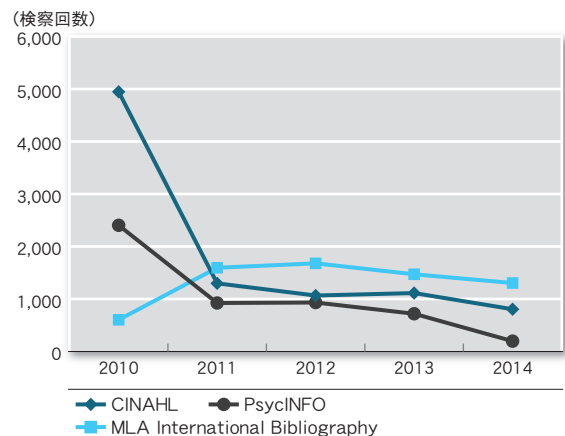
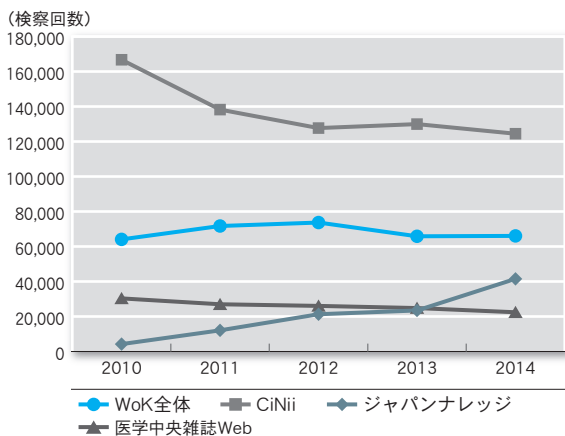
■ データベース

Database

以下のグラフは、本学で契約しているデータベースの利用状況(検索回数)を表すグラフである。データベースによって検索回数に大きな差があるため、2つのグラフに分けている。本学では、国内の学術雑誌を検索できるCiNiiと医学中央

雑誌Webが年度によらずよく利用されていることがわかる。また、事典や辞書を全文検索できるデータベースであるジャパンナレッジは着実に利用が増えているため、2015年度より同時ログインユーザー数を増やすことになった。

■ 主要データベースの利用状況

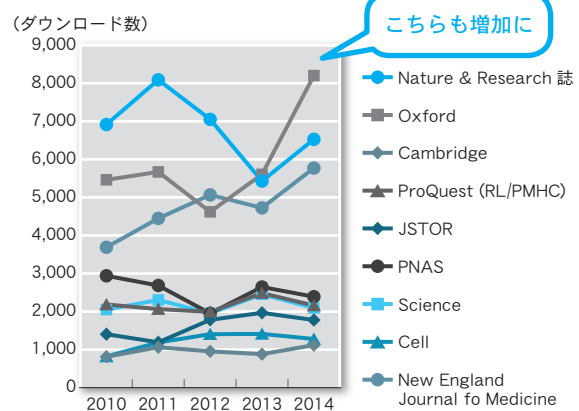
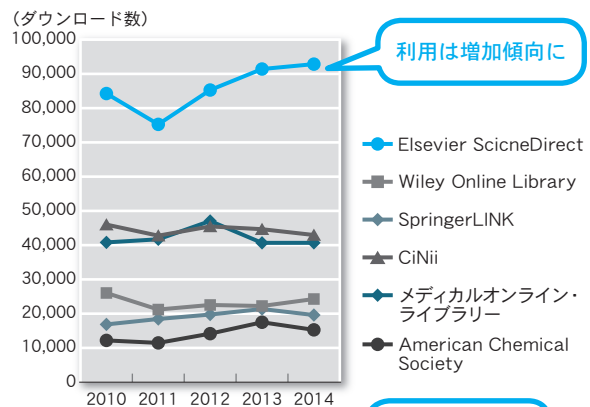


■契約タイトル数

電子ジャーナル経費(全学共通経費等)	プラットフォーム	単位	数
Cambridge Online Package	洋		335
Cell	洋		1
Elsevier : ScienceDirect	洋		2,262
JSTOR : Arts / Health & General Sciences*	洋		246
Nature & Research誌	洋		5
New England Journal of Medicine	洋		1
Oxford Online Package	洋		261
PNAS	洋		1
ProQuest : Research Library / Health and Medical Complete *	洋		6,123
Science	洋		1
SpringerLINK	洋		1,700
Wiley Online Library	洋		1,371
CiNii (サイニイ)	和		558
小計			12,865
部局経費			
American Chemical Society (ACS)	洋		44
American Physical Society (APS)	洋		8
British Medical Journal (BMJ)	洋		23
Karger	洋		74
Lippincott Williams and Wilkins(LWW)	洋		57
Project Euclid	洋		29
その他個別タイトル	和洋		46
メディカルオンライン*	和		1,055
小計			1,336
タイトル数合計			14,201

*アグリゲータ系(複数出版社のタイトルを集めたパッケージ。全文収録タイトル数)

■主要電子ジャーナルの利用状況



■ダウンロード数の多いタイトル(Top20)

順位	タイトル	プラットフォーム	ダウンロード数
1	New England Journal of Medicine	New England Journal of Medicine	5,771
2	Nature	Nature Publishing Group	4,759
3	Journal of Biological Chemistry	American Society for Biochemistry and Molecular Biology	3,797
4	The Journal of Organic Chemistry	American Chemical Society	3,406
5	Journal of the American Chemical Society	American Chemical Society	3,028
6	PNAS	National Academy of Sciences	2,390
7	Blood	American Society of Hematology	1,830
8	Organic Letters	American Chemical Society	1,360
9	Journal of Nuclear Materials	Elsevier ScienceDirect	1,301
10	Biochemical and Biophysical Research Communications	Elsevier ScienceDirect	1,285
11	Cell	Elsevier ScienceDirect	1,280
12	Physical Review B	American Physical Society	1,197
13	Journal of Clinical Oncology	American Society of Clinical Oncology	1,182
14	Angewandte Chemie International Edition	John Wiley and Sons	1,178
15	Tetrahedron Letters	Elsevier ScienceDirect	1,149
16	The Lancet	Elsevier ScienceDirect	991
17	Scientific Reports	Nature Publishing Group	961
18	Inorganic Chemistry	American Chemical Society	933
19	Nature Medicine	Nature Publishing Group	904
20	Tetrahedron	Elsevier ScienceDirect	863

購入している電子ジャーナルに大きな変更はなく、タイトル数についても昨年と比較して微増である。

上のグラフは、主要パッケージの利用状況(フルテキストのダウンロード数)である。利用数に大きな差があるのは、パッケージに含まれるタイトル数の違いが大きく影響している。パッケージ毎の利用数については、概ね増加傾向にあるが、特に2013年から収録タイトル数を大幅に増やしているOxford Online Packageについては、利用数が大きく伸びている。

左の表は、タイトル別のダウンロードランキングである。タイトル毎で見ると、プラットフォームの規模に関係なく利用されていることがわかる。また、昨年と比較して上位20位までのタイトルに大きな違いがない一方で、New England Journal of MedicineとNatureを除くほとんどのタイトルでダウンロード数が減少している。

Webサービス

WWW menu

附属図書館のホームページは、図書館サービスのポータルとして様々なコンテンツを備え、提供している。情報検索はもちろん、MyOPACを通じて、来館しなくても延長貸出などのサービスが受けられるようになっている。

ホームページは、4月にリニューアルし、ページの構成の見直しや廃止を行った。このため、総アクセス数は前年度より減少している。

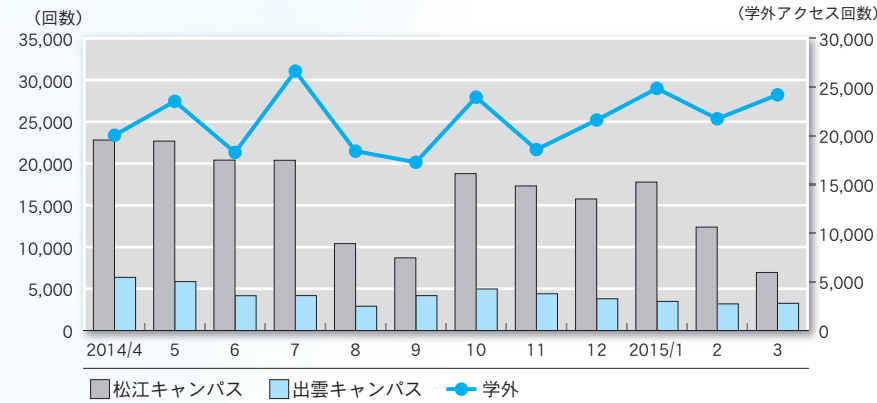
松江キャンパス内からのアクセスは、長期休業期間中は減

るものの、年間を通じてよく利用されている。特に情報検索講習会や授業で頻繁に利用される5月～6月は、毎年利用が多くなる傾向にある。

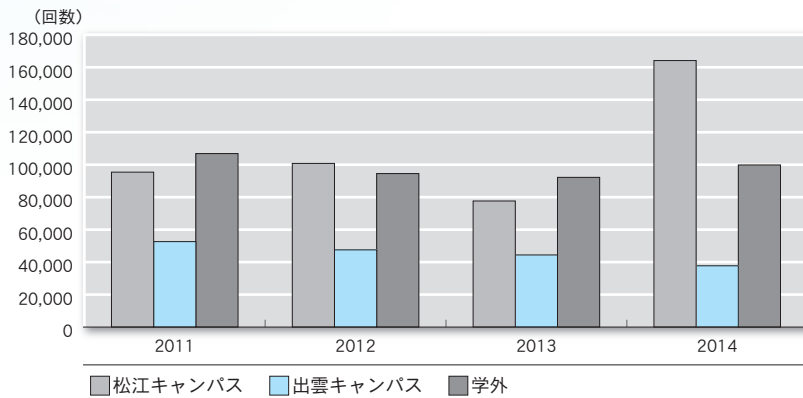
出雲キャンパスでは年間を通じて安定して利用されている。

Topページアクセス数では、松江キャンパスは、リニューアル前より大きく増加しているが、出雲キャンパス、学外ではあまり大きな変化はない。

月別総アクセス数



Topページアクセス数



よく利用されたメニュー

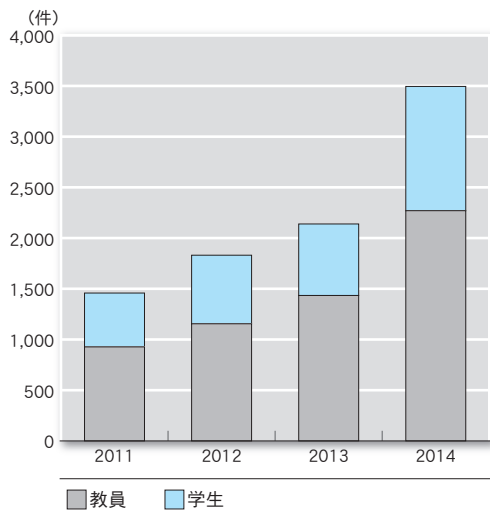
松江キャンパス			出雲キャンパス	
順位	メニュー	アクセス数	メニュー	アクセス数
1	電子リソース	10,285	電子リソース	5,063
2	利用案内	3,077	医学図書館向けのメニュー	1,779
3	図書館について	1,752	利用案内	629
4	講習会・図書館活用ガイド	1,506	教職員向け (医学図書館)	519
5	資料案内	1,307	OPAC	506
6	総合案内 (本館)	1,024	図書館について	395
7	講習会資料	825	EZproxy (リモートアクセス)	373
8	EZproxy (リモートアクセス)	755	資料案内	306
9	本館向けメニュー	571	総合案内 (医学図書館)	199
10	学生用図書購入リクエスト	570	文献複写・現物貸借申込	166

よく利用されたメニューについては、図書館ホームページのトップ画面に配置してある検索ボックス内からのリンクを除き集計を行った。

両キャンパスとも1位は電子リソースで、利用が非常に多い結果となっている。電子リソースのページは、契約している電子ジャーナルやデータベースだけでなく、無料で使える有用なものについても情報を提供している。

2番目以降は、両図書館の利用案内メニューが利用されている。

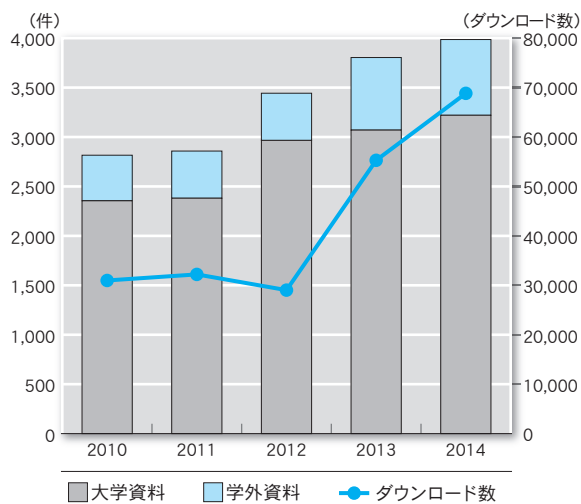
■EZproxy (リモートアクセス) ログイン件数



順位	サイト名	松江	出雲	合計
1	PubMed	4,123	60,693	64,816
2	ScienceDirect	7,136	5,694	12,830
3	American Mathematical Society	11,925	25	11,950
4	Springer Link	4,693	2,135	6,828
5	Google Scholar	4,066	1,138	5,204
6	Wiley Online Library	1,301	3,464	4,765
7	CiNii	2,622	1,342	3,964
8	Web of Science	2,391	948	3,339
9	American Chemical Society	2,074	194	2,268
10	Medical Online	320	1,799	2,119

EZproxy (リモートアクセス) は、本学契約のデータベース、電子ジャーナルを学外から利用できるサービスである。自宅や出張先からでも利用できるため、学生よりも教員のアクセスが多く、利用数も年々増えている。

■デジタルアーカイブ



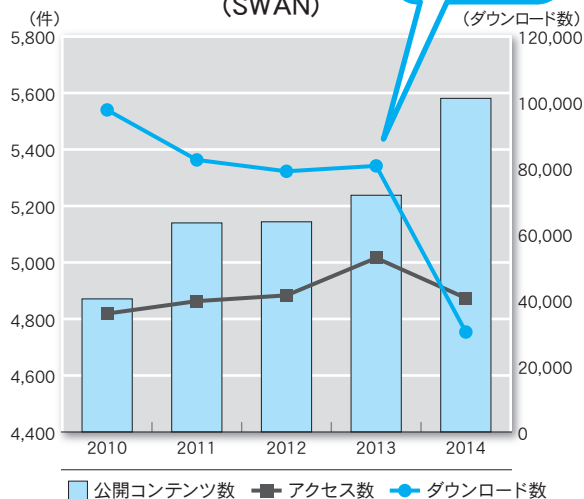
順位	所蔵	書名	巻	件数
1	桑原文庫	出雲風土記抄	—	1,362
2	貴重資料室	堀尾期松江城下町絵図		1,292
3	桑原文庫	天草原之城攻諸手仕寄場惣絵図		904
4	貴重資料室	出雲國風土記	上:能儀郡	735
5	桑原文庫	出雲風土記抄	二	710
6	桑原文庫	永禄江戸図		707
7	桑原文庫	和漢三才図会	巻之首	671
8	林家文書	波止掛り人足賃銀勘定引渡帳		634
9	貴重資料室	出雲國風土記	下:楯縫郡	631
10	桑原文庫	出雲風土記抄	四	629

デジタル・アーカイブシステムは、本学所蔵の貴重資料のほか、学外の個人や機関が所蔵する資料についても許諾を得て電子化し、ホームページで閲覧できるようにしたものである。毎年継続して登録作業を行っており、収録コンテンツの増加に伴い、利用も伸びてきている。

リストは、累計による上位10件のコンテンツで、本学貴重資料と桑原文庫資料がよく利用されている。

■島根大学学術情報リポジトリ (SWAN)

リポジトリシステム変更



島根大学学術情報リポジトリは、本学の紀要論文を中心に公開しているが、2011年度以降は、コンテンツ数が伸び悩んでいたが、2014年度は公開コンテンツ数が増加した。また、2012年度より博士論文をリポジトリで公開することとなったため、収集を開始している。

2014年度にアクセス数とダウンロード数ともに減少しているのは、前年度行ったリポジトリシステムの変更により、統計情報の収集方式が変わったことと、サーチエンジン等にクローリングされているwebページが変わったためと考えられる。

■相互協力

Interlibrary Loan

■文献複写件数

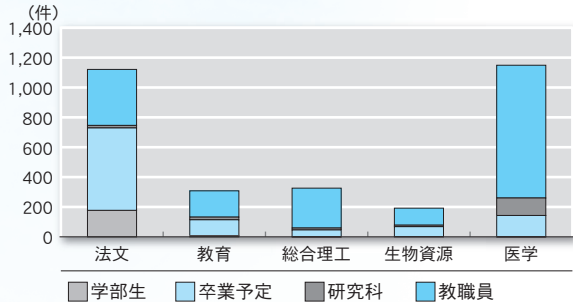
		2010	2011	2012	2013	2014
本館	受付	1,243	1,294	315	997	1,001
	国内依頼	3,954	2,910	3,156	1,908	2,115
	海外依頼	12	8	10	1	1
	依頼小計	3,966	2,918	3,166	1,909	2,116
医学図書館	受付	1,994	2,182	1,881	1,791	1,512
	国内依頼	1,950	2,115	2,136	1,470	1,199
	海外依頼	2	0	1	0	0
	依頼小計	1,952	2,115	2,137	1,470	1,199

■現物貸借件数

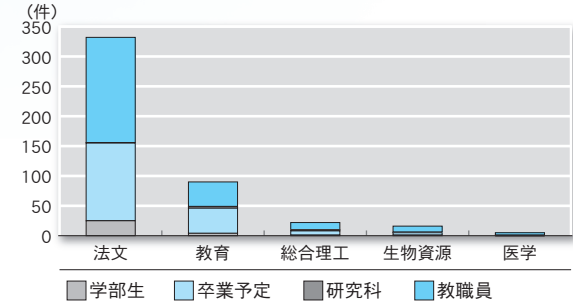
		2010	2011	2012	2013	2014
本館	貸出	368	413	55	264	272
	借受	632	478	435	430	491
医学図書館	貸出	9	41	22	25	4
	借受	21	18	43	18	8

※県内公共図書館との貸借分を含む。

■文献複写依頼の内訳



■現物貸借依頼の内訳



文献複写件数は、近年受付・依頼ともに減少傾向にある。電子ジャーナルや機関リポジトリによる電子資料の普及によるところが大きく、中国四国平均でも同様の傾向が出ている。

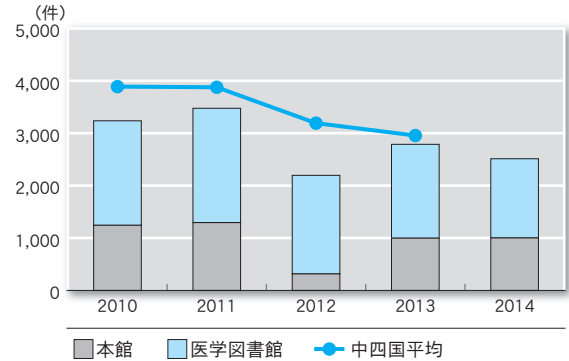
現物貸借依頼件数については、本館で若干増えている。現物貸借は法文学部からの依頼がほとんどを占めているが、これは、電子資料では入手できないような現物資料の利用を希望することが多い、法文学部の特徴からくるものと考えられる。

学部別にみると、文献複写依頼では法文学部と医学部が多く、現物貸借では法文学部の教職員および4年生の依頼が多くなっている。

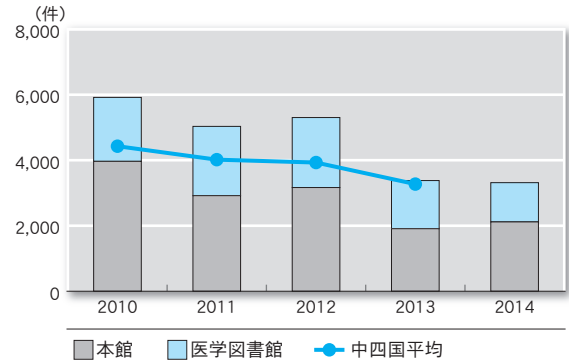
■県内図書館間の相互貸借

	貸出冊数						借受冊数					
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2009	2010	2011	2012	2013	2014
島根県立大学（浜田）*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県立大学（松江）	6	7	8	3	15	15	1	3	4	6	9	6
松江高専	11	10	7	4	1	0	0	1	3	0	0	0
島根県立図書館	5	9	14	7	6	14	23	27	6	11	18	24
県立以外の公共図書館	22	96	120	53	111	111	6	3	19	4	23	13
合計	44	122	149	67	133	140	30	34	32	21	50	43

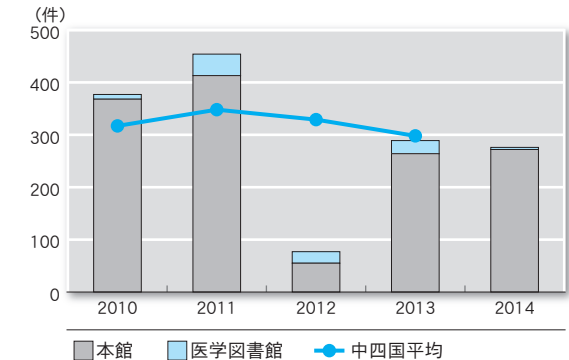
■文献複写受付件数の推移



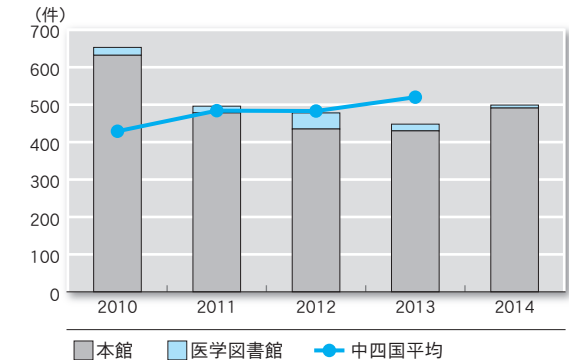
■文献複写依頼(取寄)件数の推移



■現物貸借貸出件数の推移



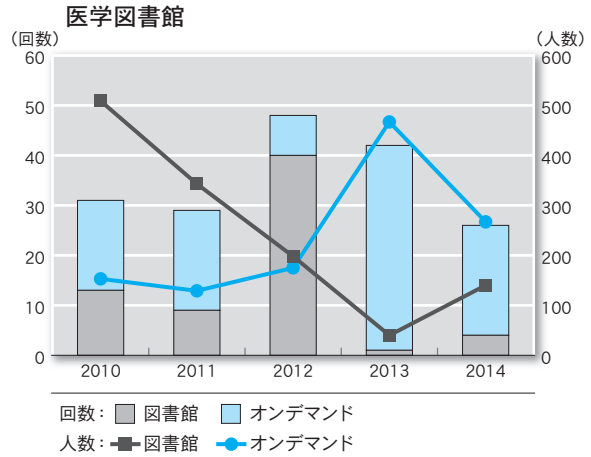
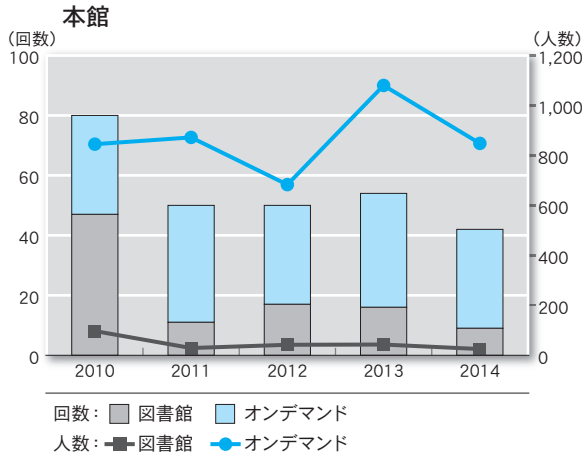
■現物貸借借受件数の推移



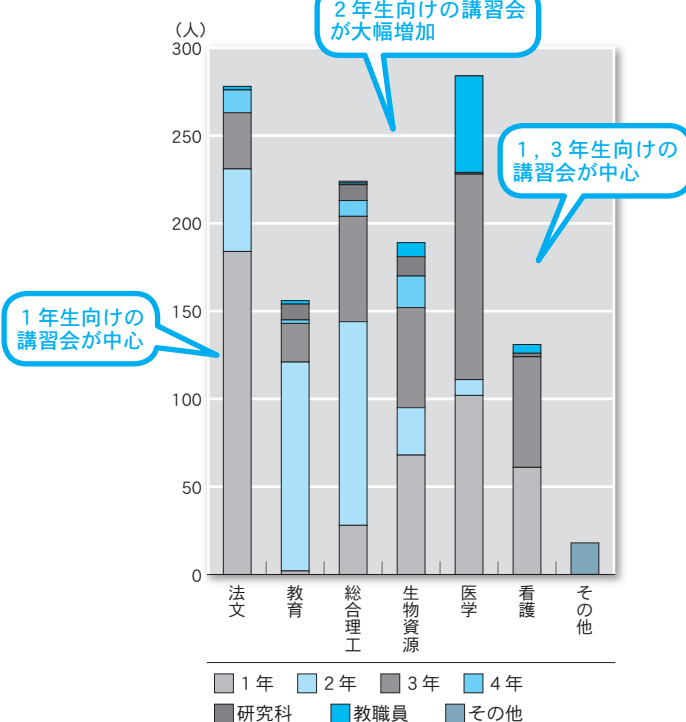
■ 学術情報リテラシー講習会

			2010	2011	2012	2013	2014
本館	図書館主催	回数	47	11	17	16	9
		参加者数	97	29	42	43	25
	オンデマンド	回数	33	39	33	38	33
		参加者数	845	872	683	1,080	848
医学図書館	図書館主催	回数	13	9	40	1	4
		参加者数	509	343	198	40	140
	オンデマンド	回数	18	20	8	41	22
		参加者数	153	129	175	467	267
参加者数合計			1,604	1,373	1,098	1,630	1,280

■ 講習会開催状況



■ 講習会参加者内訳



本館と医学図書館では、学術情報リテラシー講習会の開催方法や内容が異なる。学部により必要とされる資料や利用方法が異なるため、それぞれのキャンパスに適応した講習の内容や方法を模索しながら開催している。

本館では、講習会を図書館主催からオンデマンド講習会（授業と連動した講習会）中心へと移行してきているが、2014（平成26）年度は開催回数が減ったため参加者数も減少した。

医学図書館でオンデマンド講習会の回数が減ったのは、医学科3年生の文献検索講習会をオンデマンド講習会から図書館主催の全員受講に変更したためである。

参加者の内訳をみると、法文学部・総合理工学部・医学部の参加が多くなっている。図書館の資料そのもの、あるいは電子ジャーナルや文献検索の利用が多い学部は、最初に講習をしっかりと受けることで、その後の図書館利用に繋がっていくようである。

また、学部ごとに講習に参加する学年が異なっている。総合理工学部では昨年は1年生の参加が多かったが2014年度は大幅に減り2年生の参加が増えた。本館では、まず1年生のうちにオンデマンド講習会を通じてOPAC検索など、図書館の基本的な利用方法を学ばせるという考え方が定着してきており、4月から6月にかけては講習会で賑わっている。

2年生以上になると、各分野に合わせたデータベースの利用方法を中心としたものとなり教育学部で大幅に増加している。

図書館日誌 (2014.4~2015.3)

日付	共通・本館 (松江キャンパス)	医学図書館 (出雲キャンパス)
2014年 4月16日	新任教員向け図書館ガイダンス	
4月24日		第1回附属図書館医学図書館運営会議
5月20日	第1回附属図書館運営会議	
5月 7日	雑誌提供会 (5月8日まで)	
5月28日	学生選書ツアー	
6月 3日		講座事務担当者向け説明会(6月4日まで)
6月19日	全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト推進会議事務局として国立大学図書館協会賞を受賞	
8月21日	第4回大学図書館学生協働交流シンポジウムを実施(8月22日まで)	
7月 1日	企画展「戦争と平和を考える2014」を開催(9月30日まで)	
9月29日	中学生2名が職場体験(10月3日まで)	
9月30日	第2回附属図書館運営会議	
10月 1日		中学生2名が職場体験(10月3日まで)
10月 4日	特別企画展『江戸カー手銭家蔵書から見る出雲の文芸』を手銭記念館などとともに開催。関連イベントも開催(12月21日まで)	
10月 7日	企画展「同窓会資料でたどる島根大学のルーツ」を開催(平成27年2月まで)	
11月18日	蔵書リユース市を開催(11月19日まで)	
11月19日	全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト平成26年度実務者連絡調整会議を開催(大阪大学)	
12月 6日	島根県図書館協会職員研修会(西日本図書館学会)を共催	
12月 8日		第23回島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会(医図懇)総会を開催
12月19日	クリスマスイベント「One Night Lib. -図書館で過ごす、音楽と本の楽しい一夜」を開催	
2015年 1月 7日	教養科目「平和学」担当教員の推薦図書を展示(2月末日まで)	
1月14日		第2回附属図書館医学図書館運営会議
1月30日	第3回附属図書館運営会議	
2月12日	第4回附属図書館運営会議	
2月23日	図書情報システム更新とOPACの変更を実施	
3月19日	第5回附属図書館運営会議	

刊行物

2014年 8月	島根大学附属図書館年報2013 A4判
2015年 3月	島根大学附属図書館報「沁雲」第17号 A5判
月 刊	LiMe : ライム (No.60 ~ 69)
月 刊	インフォ・アクセス (Vol.10, No.4 ~ Vol.11, No.3)

新聞等で報道された附属図書館

2014年 4月18日	桑原文庫展	山陰中央新報
5月30日	島大生が選書ツアー	山陰中央新報
7月14日	企画展「戦争と平和を考える2014」	山陰中央新報
7月21日	26年度国立大学図書館協会賞受賞について	文教ニュース
9月19日	同上	毎日新聞
9月28日	同上	中国新聞
10月22日	手銭記念館特別企画「江戸力」	島根日日
11月18日	蔵書リユース市	山陰中央新報
11月19日	同上	松江マーブルTV

■人事異動

【2014（平成26）年4月1日発令】

氏名	異動後	異動前
田中 俊二	採用 学術国際部図書情報課長	鳥取大学学術情報部図書館情報課長
青柳 和仁	採用 学術国際部図書情報課図書職員 (企画整備G資料整備担当)	
三村 のぞみ	採用 学術国際部図書情報課図書職員 (情報サービスG資料利用担当)	
小松 敦子	採用 学術国際部図書情報課事務補佐員 (企画整備Gコンテンツ担当)	
昌子 喜信	学術国際部図書情報課課長補佐	学術国際部図書情報課係長 (企画整備GL)
山崎 文子	生物資源科学部事務長補佐	学術国際部図書情報課係長 (企画整備G総務・会計担当)
山本 真紀	学術国際部図書情報課係長 (企画整備G総務・会計担当)	教育学部事務部係長 (附属学校事務グループ)
山崎 月子	学術国際部図書情報課図書係長 (医学情報GL)	学術国際部図書情報課係長 (企画整備G資料整備担当)
飯田 啓子	再雇用更新 学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)	学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)
加本 純夫	再雇用更新 学術国際部図書情報課再雇用職員 (情報サービスG学術情報担当)	学術国際部図書情報課再雇用職員 (情報サービスG学術情報担当)
吉井 紀子	再雇用更新 学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)	学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)
米田 政子	再雇用 学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)	学術国際部図書情報課再雇用職員 (情報サービスG学術情報担当)

【2015（平成27）年3月31日発令】

氏名	異動後	異動前
小豆澤 悦子	退職	学術国際部図書情報課係長 (情報サービスGL)
舟木 望実	退職	学術国際部図書情報課事務補佐員 (企画整備G資料整備担当)
飯田 啓子	雇用期間終了	学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)
加本 純夫	雇用期間終了	学術国際部図書情報課再雇用職員 (情報サービスG学術情報担当)
吉井 紀子	雇用期間終了	学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)

■研修

氏名	研修・講習会名	期間
錦織 亜希子	第31回医学情報サービス研究大会	2014年 7月26日～ 7月27日
青柳 和仁	平成26年度目録システム地域講習会（雑誌コース）	2014年 9月 3日～ 9月 5日
錦織 亜希子	大学図書館職員短期研修	2014年10月 6日～10月10日
小林 奈緒子	第55回中国四国地区大学図書館研究集会	2014年10月 9日～10月10日
小林 奈緒子	平成26年度山陰5機関合同中堅職員研修	2014年11月 5日～11月 7日
錦織 亜希子	日本医学図書館協会第20回医学図書館研究会・継続教育コース	2014年11月 6日～11月 8日
矢田 貴史	平成26年度日本古典籍講習会	2015年 1月 6日～ 1月30日
青柳 和仁	機関リポジトリ新任担当者研修	2015年 2月27日
青柳 和仁	機関リポジトリ担当者のためのDOI講習会	2015年 3月 9日



SHIMANE
UNIVERSITY LIBRARY
Annual Report
2014

島根大学学術情報機構
附属図書館年報2014

2015(平成27)年7月発行

発行/島根大学学術情報機構附属図書館

本館/〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL 0852-32-6083 FAX 32-6089
医学図書館/〒693-8501 出雲市塩治町89-1 TEL 0853-20-2092 FAX 20-2095